

平成27年度 校内研究

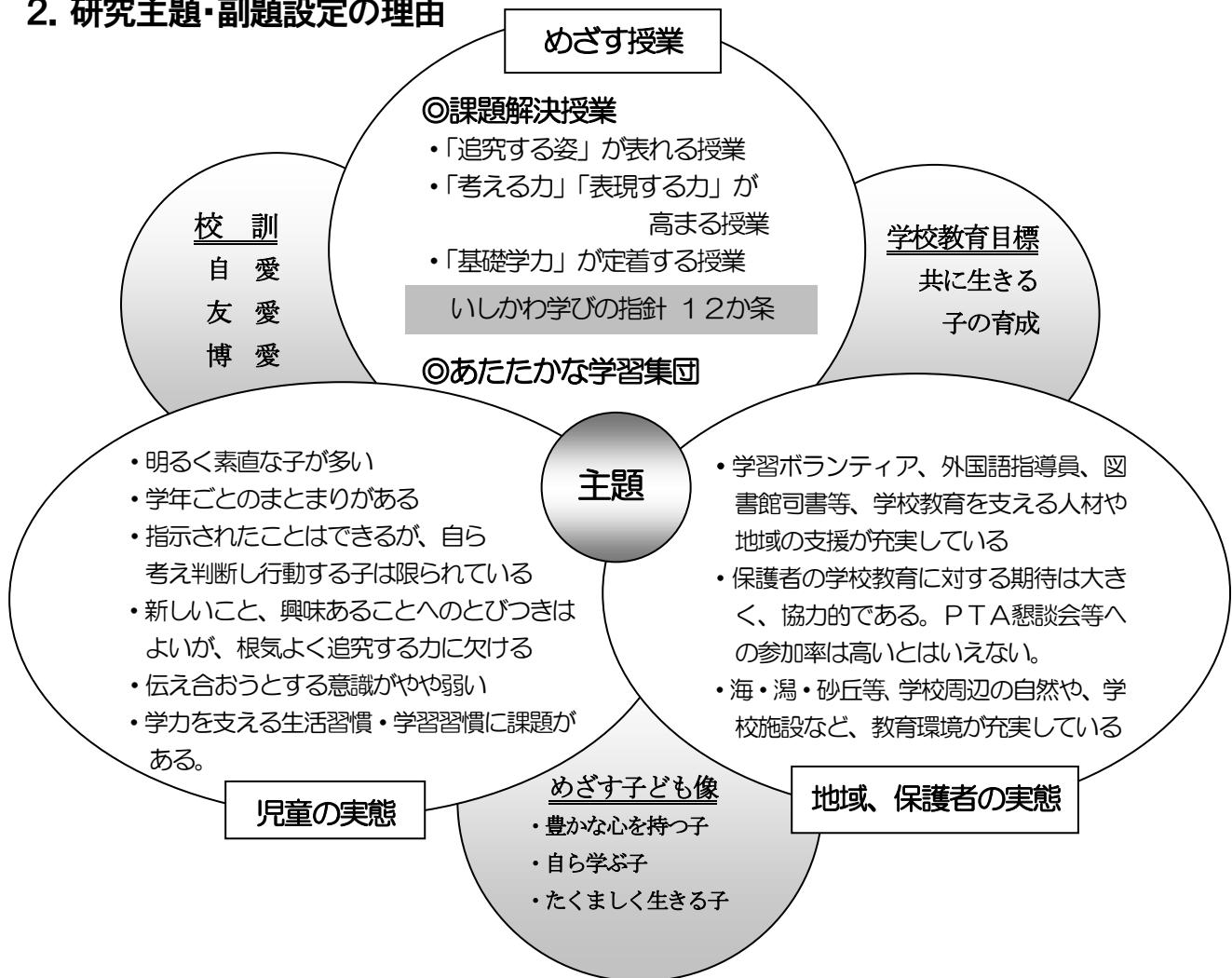
内灘町立清湖小学校

1. 研究主題

自ら考え、追究する子をめざして

～「根拠や筋道を明確に表現すること」を通して～

2. 研究主題・副題設定の理由



本校では、平成17年度から、研究主題を「自ら考え、追究する子をめざして」とし、追究する姿がみえる授業づくりを目指し、実践を積み重ねてきた。

本校が考える「自ら考え、追究する子」とは、

課題を見出し、個や集団の中で、既習事項やこれまでの経験を総動員して課題の解決や達成に向けて考え、それを表現し合うことで学びを深めるとともに、さらに新たな課題を生み出し追究し続ける姿

である。このような学びへの姿勢・能力を、これからの時代を生きる子どもたちに、ぜひとも獲得させたい。

昨年度までの3年間、本校は「活用力」、すなわち「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等」を育成するための指導改善の方向性として示された「いしかわ学びの指針12か条」の推進校となり、この指針の具現化を図る中で、本校が目指す児童の姿にせまろうと取組を進めてきた。

いしかわ学びの指針12か条推進校 3年間の研究の成果として、次の点が挙げられる。

- 根拠や筋道を明確にして自分の考えを表現させるためのポイントを共通実践してきたことで、積極的に学習問題にかかわり、自分の考えを、納得感をもたせて伝えようとする意欲や力の向上がみられたこと
- 全校共通のノート指導により、考えの根拠・理由を明確にし、学んだことや自らの変容を「書くこと」によって表現できるようになってきたこと
- 家庭学習習慣の改善、基礎・基本となる知識・技能の向上が図られてきたこと

特に、表現力ステップアップ表などで表現の話型・思考の視点を具体的に示すとともに、クラス全体に思考を促したり、根拠や理由を明確に表現させたりする働きかけを授業者が行ったことで、児童が、根拠や理由を明確にして自分の考えを分かりやすく表現できるようになってきたこと、「どうして」「どこから」という問いに対してもたくましくかわることができるようになってきたことは、この3年間の取組の成果であると言える。

これまでの成果をもとに、子どもたちが、さらに主体的・協同的に学習にかかわり、深まりのある学びを創っていくことを目指したい。そのためには、

- ・これまで重視してきた「根拠をもとに筋道を立てて表現し合う（学びの指針1）」ことを、今後も大切にし、子どもたちの思考を深める教師の働きかけ（発問・問い返し）の質をさらに向上させていくこと
- ・より能動的に学習に取り組むことができる学習スタイルへの転換を図っていくこと
- ・一人ひとりの授業への参加度を上げ、子どもたちがより積極的に表現したりかわり合ったりしながら思考を深め、何を学んだのかを自覚できるようにすること

が大切であると考え。学ぶ楽しさを実感させ、学習意欲のさらなる向上につなげたい。

さらに、学び合う土台となる「話す力」「聞く力」を確実に身につけさせることは、本校が継続して取り組んでいく必要がある大きな課題の一つである。

そこで、今年度も、これまでの共通実践を通して積み上げてきた成果を土台とし、いしかわ学びの指針12か条の理念の具現化を図りながら、根拠や筋道を明確に表現させることを核に実践を積み重ね、主題に迫っていきたい。

3. 研究の仮説

児童の追究意欲を高め、つきたい力をつけるために、適切な学習課題・学習活動を設定し、根拠や筋道を明確にして表現（「話す」「聞く」「書く」）し合う場を大切にしていくことで、子どもたちは、課題の解決や達成に向かって意欲的に取り組み、「自ら考え追究する力」を高めることができるだろう。

4. 研究の重点

根拠や筋道を明確に表現し合う（「話す」「聞く」「書く」）ことで、自ら考え、追究する力を高める授業づくりを実践する。

5. 授業づくりの重点と具体的取組

重点

根拠をもとに筋道を立てて自分の考えを表現する「集団追究の場」の充実

指針1

「追究する力」を高めるために、課題設定→個の追究→集団の追究→ふり返りの4つの学習過程のある課題解決型の授業に、取り組んでいく。この学習過程を大切にすることで、意欲をもって学習に取り組み、「追究する力」を高めることができると考える。その中でも、特に「集団追究の場」を重点とする。

クラスの仲間と学び合い、高め合うためには、考えたことをいかに適切に、積極的に表現し合うかがポイントとなる。考えを伝えるときには、「ただ何となくそう思った」「たぶんそうだと思う」という、単に思いを表現することだけにとどまることなく、**何をもとにして考えたのか「根拠」を示し、なぜそう考えられるのか「理由」をはっきりと表現させる**ことが必要である。それが、「そうか」「なるほど」という納得感を生むことにつながっていく。また、聞き手は、表出された考えを的確にとらえ、自分の考えと比較しながら、違いや共通点を見出したり、友達が伝えてくれた見方や考え方をもとに新たな考えを生み出したりしていくようにしたい。このような経験を積み重ねていくことで、追究する力を高めることを目指す。

子どもたちの発言の中には、根拠や理由が不明確なものが少なくない。それらを明確にするために、「どうしてそう思ったのかな」「どこからそう考えたのかな」などと、**「発問」や「問い返し」によってたりない部分に気づかせ、表現させる**ようにしていくことが、教師の大きな役割である。そのためには、本時で表出させた考え、それを支える根拠や理由を授業者が明確にとらえておく必要がある。また、表出された考えを整理したり、多面的・多角的に思考させたりするなど、さらに思考を深めるような働きかけをしていくことも重要である。子どもたちが「追究する力」を高めるためのよりよい手立てを模索していく。

- ・子どもたちに表出させたい「根拠」「理由」「結論(考え)」を授業者が明確にとらえる
- ・発問・問い返しにより、児童の表現にたりない部分(根拠・理由)に気づかせ、表現させる
- ・本時のねらいにつながる重要な場面や教材の本質の部分で、問い返しや深めの発問を行う
- ・クラス全体の思考をうながす働きかけ(問い返し・発問)を行う
- ・新たな視点をもたせるなど、多面的・多角的に考えさせる働きかけを行う



より主体的・協同的に学習にかかわり、深まりのある学びを創るために…

① 意欲を高め、つけたい力をつけるための適切で効果的な学習課題・言語活動の設定

指針6

子どもたちにつけたい力をつけるために、適切で効果的だと考えられる学習課題や言語活動を工夫する。課題は、多様な思考ができるもの、根拠や筋道を明確に表現できるもの、思考を深めることができるようなものとなるようにする。また、単元全体を貫く言語活動、自分の考えを様々な方法で表現させる場、習得した知識を活用する場などを設定するなど、つけたい力をつけるための手立てとして、どんな言語活動・学習活動が適切で効果的であるかを考え、教科の特性を生かして、単元や1時間の授業の中に位置づける。

学習課題や言語活動を設定する際には、「追究したい」という意欲を高めるために、課題をもつまでの過程を工夫したい。「あれ?」「どうして?」「考えてみたい」「やってみよう」という児童の思いを引き出すようにすれば、主体的・意欲的に追究していくことができるであろう。児童の思考の流れを大切にしながら、学習課題や言語活動を設定し、目的意識をしっかりとって、学習材と関わっていくことができるようにしたい。

- ・既習事項や前時までの学習を生かし、根拠や考えを明確に表現できる課題づくり
- ・単元のゴールを見通し、つけたい力をつけるために適切で効果的な言語活動・学習活動の設定
- ・「あれ?」「どうして?」「考えてみたい」「やってみよう」という思いを引き出し、主体的・意欲的に追究できる課題・言語活動・学習活動の工夫

② 思考を深め、表現力を高めるための少人数対話の活用と汎用的なアイテムの獲得

指針1・3・6

思考を深めたり表現力を高めたりするためには、様々な形態で伝え合う場をもつことが効果的である。一人

ひとりに音声言語で表現する機会を確保して話す・聞く力をスキルアップさせる、友達の考えについて説明したり友達の発表を再現したりするなどして考え方の定着を図る、授業のねらいにせまるポイントとなるところで全員に思考させる、友達の考えをノートにまとめてみるなど、**意図的・計画的に少人数での対話（ペア活動・グループ活動）や書く活動を設定**するようにする。こうすることで、1時間の中で一人ひとりが表現する頻度が高まり、授業の参加度が高くなることで、確実な学力の定着につなげることも期待できる。

少人数対話やクラス全体で考えを伝え合う場では、考えとそれを支える**根拠・理由を表すための話型や考え方を示した「表現力ステップアップ」表を活用**していく。表現力ステップアップ表で示した話型や考え方は、納得感のある話し方をしたり、発言者の意図を聞き取ったりするために、様々な場面で使えるアイテムである。このような**汎用性のあるアイテムを獲得させ、それらを学校全体で系統的・継続的に指導**していくことを、各教科においても進めたい。例えば、算数で小数の乗除の立式で活用するアイテムである数直線図を「割合」の問題を解決するときにも生かす、国語で解説文を書くときに使った書き方のアイテムを、次の書く単元や行事作文を書くときに活用するなど、アイテムを生かす場面がある。このような、習得したアイテムを活用したり応用させたりする場を設定し、アイテムを活用したことを意識させることで、考え方や問題解決のための方法が身に付き、様々な場面で活用できる汎用的なアイテムにしていくことができると考える。汎用的なアイテムを獲得させ、定着させていくためには、前の学年や単元で、どんなアイテムを身につけてきているのか、この単元で身につけさせたり活用させたりしたいアイテムは何か、次の単元で使えるようにするために今の単元で身につけさせるべきアイテムは何か、明確にとらえて指導していくことが必要であろう。授業実践を通して、各教科の内容に応じたアイテムの明確化を図り、継続的な指導につなげ、様々な場面で活用できる汎用的なアイテムとして、身につけさせることを目指す。



- ・ 目的をもった意図的・計画的な少人数対話・書く活動の設定
 - ① 表現する力（話す・聞く・書く）を一人ひとりに身につけさせる
 - ② 大切な考え方の定着を図る
 - ③ 授業のねらいにせまるポイント、もう少しで解決できそうな場面で、全員に思考させる
- ・ 1時間の中で、一人ひとりが表現する頻度を高め、参加度が高い授業の創造
- ・ 根拠や理由を明確にするためのアイテム（話型）の揭示・活用（表現力ステップアップ表）
- ・ 身につけるべきアイテムの明確化と、活用する場づくり（汎用性のあるアイテムの整理と獲得）

③ 思考した足跡が残り、学んだことや自己の変容が自覚できるノート指導

指針1・4

子どもたちが思考した足跡を残し、学んだことや自己の変容を自覚できるようにするために、ノートは大きな役割を果たす。「書く」ことにとって思考を深めることができるように、ノート指導の充実を図る。全校共通のノート指導のポイントである「ナディ・ノート 10のポイント」によるノートの書き方指導や、ワークシートの工夫により、自分の考えを適切に書くことができるよう日頃から指導するとともに、根拠や筋道を明確にしたり、図やキーワードなどを用いて分かりやすく表現したりするなど、自分の考えや思いを書くためのアイテムを獲得していくことができるように指導していく。また、よりよいノートを紹介したり、認定したり、朱書きで価値づけることで、一人ひとりのよさを全体に広めるとともに、学習への意欲を高めるようにする。

最終的には、1時間の授業を通してどんな深まりがあったか、どんなことが明確になったのかを、自分の言葉で適切にまとめることができることを目指したい。「書くこと」で学びを可視化することは、自らの変容や、授業を通してクラスの仲間と価値ある財産を創り上げることができたことを実感することにつながる。そのためにも、タイムマネジメントに留意し、「ふり返りの時間」をしっかりと確保する。

- ・ 「ナディ・ノート」10のポイントによるノートの書き方指導
- ・ 教科に応じた表現の方法の指導、ワークシート等の工夫
- ・ 本時をふりかえり、自らの変容を自らの言葉でまとめるための時間の確保
- ・ どのようなよさがあるのかを明らかにし、次の意欲になるような朱書きの工夫
- ・ 児童にみられたよさを広める機会の設定（「ナディ・ノート」の認定、揭示、交流など）



6. 学力・学習を支える基盤、指導改善を進める体制をつくるための具体的取組

(1) 基礎的な学力・表現力の向上・定着を図る

*学習の基盤を作る取り組みの共通実践

① 朝学習を活用し、基礎学力の定着・習熟、課題の克服を図る 【学びの指針 3】

- ・8:10～8:20の10分間、担任の指導のもと、取り組む（職員朝礼がある月曜を除く）。
- ・学習課題に取り組んだ後は、速やかに解答・解説をし、フィードバックを行う。

曜日	内 容	
月	読 書	・読書（読書カードの記入も含む）
火	AKBタイム	活用力向上のための課題 ・根拠や筋道を明確にして表現させる表現力の向上のための課題 ・本校児童の課題の克服のための課題 (学力向上プログラム、各学力調査過去問題等を活用)
水・金	国語・算数	基礎学力向上のための課題（学年・学級裁量） ・繰り返し学習によって、習熟・定着を図ることが必要な課題 ・家庭学習の成果を検証する小テストなどの実施 (国語) 漢字、ローマ字、ことわざ、四字熟語、作文、視写 など (算数) 四則計算、比例数直線図にまとめる、作図 など
木	読 書	・読書（1～4年） ・小学生新聞等を活用した新聞読書・視写（5・6年）

② 家庭との連携を深め、よりよい家庭学習習慣の定着を図る 【学びの指針 7・9・12】

- ・10分×学年（低学年は20分）の学習時間の定着を目指し、学習時間に見合う課題を工夫
- ・家庭学習・計算・漢字ステップアップ週間の設定
漢字（各学期1回）、計算（1・2学期 各1回）、それぞれ1週間ずつ全校一斉に設定
新出漢字の書き取り、基礎的な四則計算の繰り返し学習
1週間の家庭学習取組時間を記録して可視化
- ・学習日より「CATCHBALL」・「家庭学習のてびき」など家庭学習の参考になる資料の発行
- ・家庭学習の主体性を高め、学力の向上を図るための「自学ノート」指導の充実

③ 読書活動の充実を図る 【学びの指針 8】

- ・朝読書（毎週月曜・木曜、高学年は週1回の新聞読書）、読書週間の設定
- ・読書の履歴が分かる「読書カード」の活用
- ・地域ボランティアによる「お話会」、英語による読み聞かせ「イングリッシュ・タイム」（月1回）
- ・いしかわ学校読書の日（毎月23日）、親子ふれあいデー（毎月第3火曜～木曜）の活用
(読書を家庭学習の課題とする)

④ 各種学力調査により、児童の学力の定着状況をとらえ、弱点克服のための取組を実施する

【学びの指針 3】

- ・全校挙げての組織的な弱点克服・指導改善の取組の推進
学力調査実施後、速やかな採点・分析・取組の実施
教科部会を組織し、採点の実施、指導改善・弱点克服の取組の検討と実行
- ・学力向上プログラム、各学力調査の過去問題の活用（朝学習・RKBタイム・単元末テスト）
- ・朝学習の計画的なプリント学習（AKBタイム）
弱点の補強、特に重要な学習内容の繰り返し学習、学力向上プログラム・学力調査問題の活用
- ・到達目標に達していない児童への個別指導や補充授業（放課後・長期休業中 等）

・校内学習到達度調査の実施により、活用力・表現力の伸長と指導改善を図る

⑤ 学習規律の確立を図る

【学びの指針 7】

・学びのステップアップ12の指導

「学習の構え」「書く」「話す」「聞く」について全校共通指導

あたりまえにできること（習慣化すること）を目指す

・表現カステップアップ表の「話す」「聞く」力の段階表の日常的活用

クラスで目指す目標の設定、ふりかえりの場の設定

*表現力（書く・話す・聞く力）をつける取組の共通実践

【学びの指針 1】

① 表現カステップ表（考え・根拠・理由の表現の仕方）の活用

根拠・理由・考えの示し方の具体的な姿を話型・三角ロジック図で児童に分かりやすく示す

② ナディ・ノート10のポイントにより、ノート指導の充実を図る

10のポイントができていない児童にナディ・ノートの認定、教室等でのナディ・ノートの掲示

(2) 教師の授業力をつけるための学び合う環境づくり

【学びの指針 11】

*授業研究を推進し、授業実践の成果と課題が共有できる環境を整える

- ・研究授業には外部講師を招聘。視点を明確にして協議を行う（授業案の検討・授業参観カードの作成）
- ・授業の通信を発行するなど、授業整理会後の成果と課題を共有し、明確になったことを共通実践にいかす
- ・日常的な授業研究を進められるよう、授業参観週間を各学期1回設定
- ・特に若手教職員のニーズに応じた校内職員研修を計画的に実施
（得意分野のポイントを伝え合う、お互いの取組を紹介し合う など）

(3) よりよい実践を積み重ねていくための検証方法の具体化

*実践や取り組みの効果を多面的・多角的に検証し、よりよい実践にいかす

- ・児童の変容・取組の成果についての検証の方法・観点を明確化し、学力調査や児童の姿、アンケート等などを活用した検証を行い、その結果をもとに、さまざまな方策や研究推進体制の改善を図る。

ア) 学力調査・単元テスト

国・県学力調査（4月／4・6年）、評価問題（12月／5年）、校内学習到達度調査（1・2月／全学年）

- ・課題を把握し、その課題の改善が図られているかを、正答率・解答状況で検証
- ・校内到達度調査は、学力調査等で課題になった点が改善されているか、根拠や筋道を明確に表現する力が身についているかどうかを検証するため、問題を自作するなど工夫して実施

イ) ナディノート（ナイス・スタディ・ノート）の認定

- ・ノート指導において全校共通に設定した10項目ができていないか認定
- ・各学期1回1単元分のノートを確認。認定者の数の変化で検証

ウ) 学びのステップアップ12（本校の学習規律の基本）

- ・年4回のふりかえりアンケートで、肯定的な解答の変化で検証

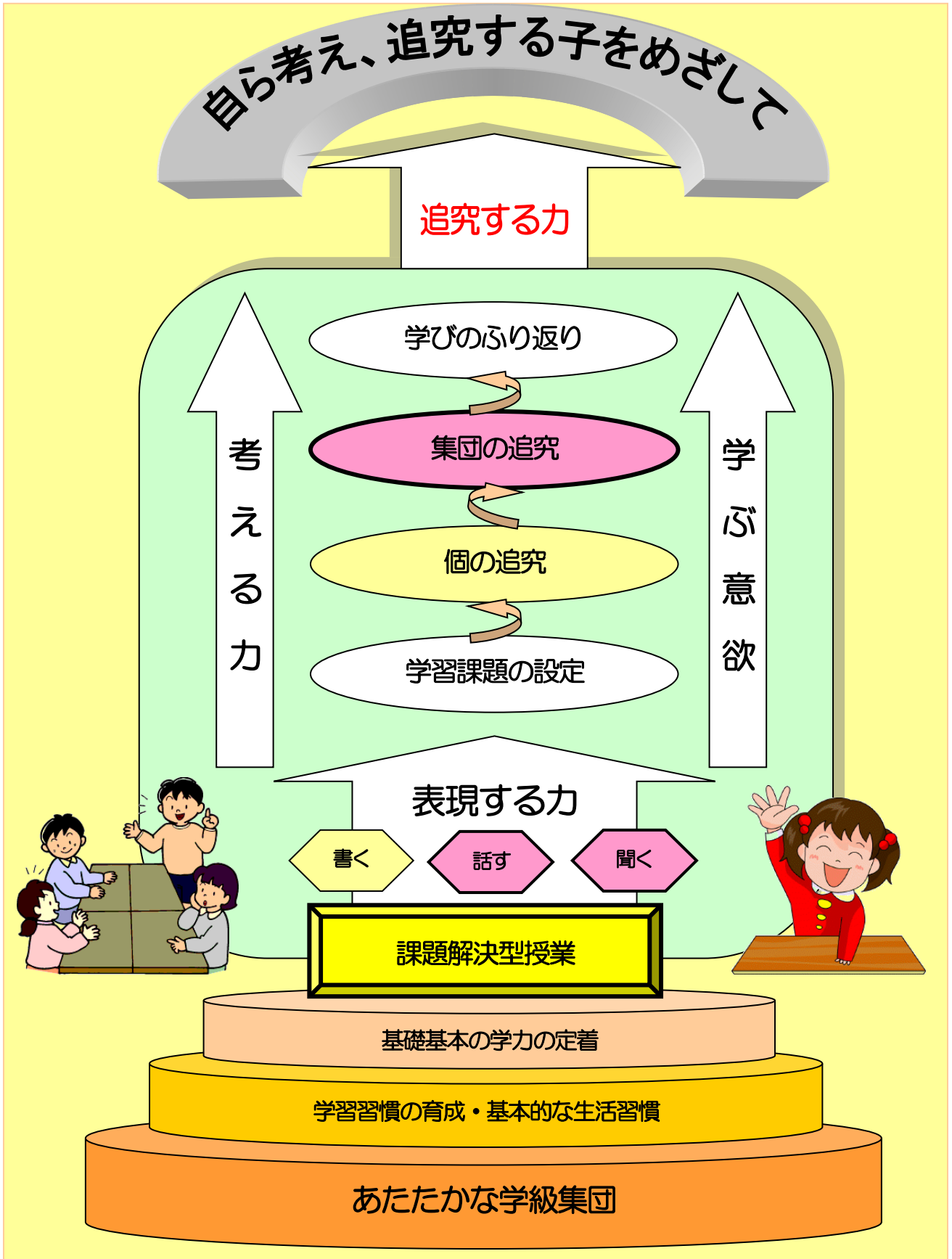
エ) 家庭学習・漢字・計算ステップアップ週間

- ・家庭学習 … 学年目標時間の達成日数の変化で検証
- ・計 算 … 同一問題に取り組みませ、取組の前後での正答率・タイムの変化で検証
- ・漢 字 … 問題を初見で「まとめのテスト」を実施し、正答率で検証

オ) 学校評価

- ・研究の重点にかかわる点について項目を設定し、児童・教職員評価の数値の変化で検証

7. 研究構想図



課題解決型授業

児童

教師



- あれ？不思議だな
- なぜだろう？
- 考えてみたい、やってみたい
- どのようにしたらいいかな
- 何かきまりがあるのでは？
- ○○ができるように
 取り組んでいこう
- 考えてみたい。

課題の設定



個の追究

- 自分の力で考えてみよう
- できないところを
 できるようにしたい。
- 前に学んだことを使ったら
 解決できないかな
- 理由をはっきりさせよう
- 他のやり方でやってみよう

自分の考えをわかりやすく伝えよう
 これまでに学んだ学習内容や
 伝え方を使って表現しよう

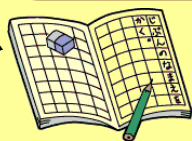
- みんなの考えを聞きたい
- 自分の考えと同じだ
- ○○という点では、少しち
 がうところがあるぞ
- どんなことを言いたかった
 のか質問してみたい
- なるほど、そんな考えもで
 きるのか

集団の追究



- 課題に対する答えがはっきりしたぞ。
- はじめの自分よりも考えが深まった。
- ○○さんの考えの方は、とてもわかりやすかった
- ○○を使って考えたらできた
- 学習用語を使い、根拠をはっきりさせてまとめよう
- 次はこれを考えてみたい

学びのふりかえり



- ☆追究意欲が高まる
 単元構成や課題の工夫
- 主体的に課題をもてる工夫
 - 根拠や筋道を明確に表現できる課題づくり
 - 単元のゴールを見通した課題づくりと
 効果的な言語活動の設定

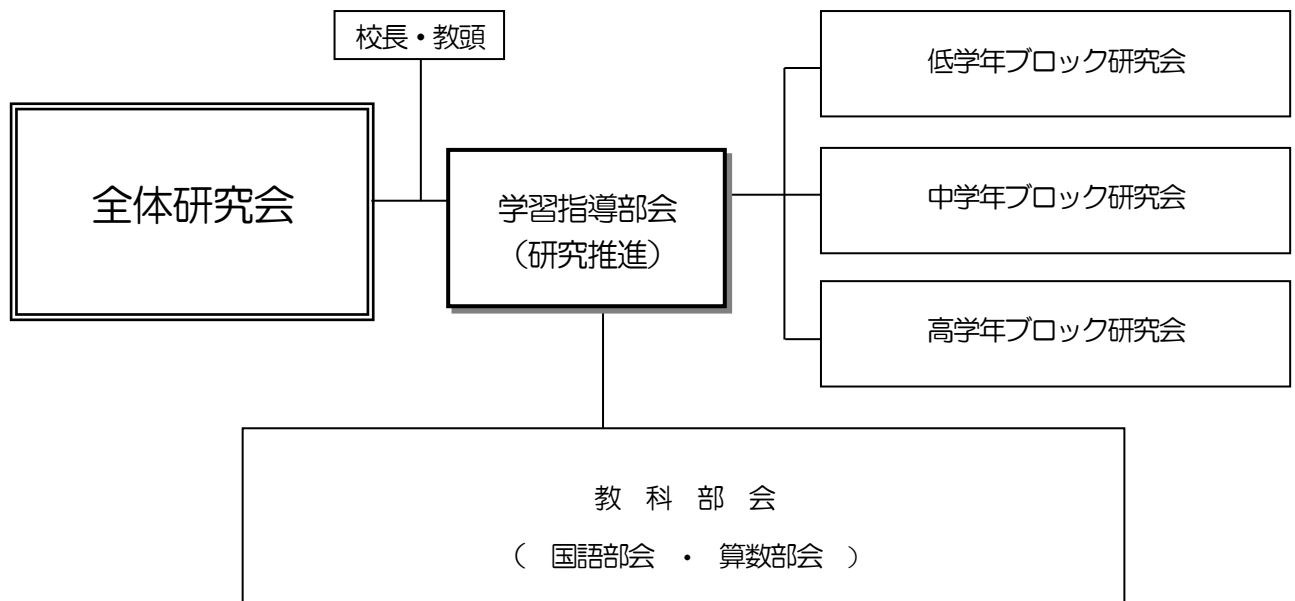
- ☆「書くこと」の充実を図る
- 基本的な書くためのアイテムを獲得させる
 (ノートの書き方の指導・ワークシートの工夫
 教科に応じた表現方法の指導 など)
 - 既習事項をふりかえり、
 考えをもつことにつながる教室掲示

既習事項・アイテム
を活用させる

- ☆「話す力」「聞く力」をつけ、
 話し合いの充実を図る
- 考えを伝えるためのアイテム
 (基本的な話し方) を獲得させる
 - 思考を深め、ねらいにせまるための発問
 - 授業の流れが分かり、
 気づきが生まれるような板書の工夫
 - 考えを高めるための適切な場を、
 目的をもって設定する

- ☆変容を実感するための
 ふり返りの場をもつ
- 本時をふりかえり、自らの変容を
 自らの言葉でまとめるための時間の確保
 - どんなよさがあるのかを明らかにし、
 次の意欲になるような朱書きの工夫
 - 児童にみられたよさを広める機会の設定
 (学びのあしあとを記したノート交流など)

8. 研究の組織と活動内容



- ・低・中・高学年の「ブロック研究会」、国語・算数の「教科部会」を組織する。
- ・ブロック研究会は担任する学級が所属するブロック、教科部会は授業研究を行う教科に所属する。同一ブロックで、国語・算数各部会の所属職員が同数となるように調整を行う。
- ・全員が、校内研究授業を1回ずつ行う。
- ・担任・少人数担当は国語または算数で、級外は担当教科で、研究授業を行う。
- ・各ブロック各1回全体研究授業を行い、校内研究の視点・重点の具体化について、共通理解の場とする。
- ・各教科部会（国語・算数）において、年間2回の教科部会研究授業を行い、教科ごとの重点課題について、協議・研究を行う。
- ・研究授業では、事前研究会・整理会をもつ。また、外部講師を招聘するようし、指導・助言をいただくことで研究の充実を図る。
- ・全体研究授業には、全職員が参加する。教科部会研究授業には、当該教科部会に所属する職員が参加する。ブロック研究授業には、当該ブロック研究会に所属する職員が参加する。なお、他教科部会・他ブロックに所属の職員も、各研究授業を積極的に参観するように努める。

9. 年間活動計画案

会 月	学習指導部関係	研究授業等関係		
		低学年	中学年	高学年
4月	<ul style="list-style-type: none"> 研究組織と役割分担 研究主題・研究の重点の共通理解 年間研究計画案作成・指導案形式の共通理解 各ブロック・教科の重点の設定 国・県 学力調査の実施（4・6年）、採点 			
5月	<ul style="list-style-type: none"> 国・県学力調査の採点・分析 課題の解決に向けた取り組みの検討 提案授業 家庭学習・計算ステップアップ週間① 	ブ/2年（国語）	ブ/3年（算数）	全/5年（算数）
6月	<ul style="list-style-type: none"> 授業参観週間① 学びのステップアップ1 2 ぶりかえり① 教科部会研究授業① 		教/4年（国語）	教/6年（算数）
7月	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習・漢字ステップアップ週間② 授業アンケート（学校評価） 教科部会（1学期のぶりかえり・取組内容の報告） 	指導主事学校訪問B（全体研究会） 7/1		
8月	<ul style="list-style-type: none"> 学力調査詳細分析 校内学習到達度調査 問題作成 全体研究会（道徳学習会・2学期に向けて・学力調査分析） 	全/2年（国語）	ブ/4年（算数）	
9月		ブ/1年（算数）	ブ/3年（音楽）	ブ/3年（特支）
10月	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習・計算ステップアップ週間③ 学びのステップアップ1 2 ぶりかえり② 	指導主事学校訪問A（全員授業公開） 10/20		
11月	<ul style="list-style-type: none"> 授業参観週間② 	全/1年（算数）	ブ/3年（算数）	ブ/6年（図工）
12月	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習・漢字ステップアップ週間④ 学びのステップアップ1 2 ぶりかえり③ 評価問題（5年）実施、採点・分析 2学期の振り返り・各ブロック研究会からの報告 授業アンケート（学校評価） 		ブ/3年（特支）	ブ/6年（算数）
1月	<ul style="list-style-type: none"> 校内学習到達度調査（1～4・6年）実施、採点・分析 教科部会研究授業② 研究の成果とまとめ 		教/3年（算数）	教/6年（国語）
2月	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習・漢字ステップアップ週間⑤ 学びのステップアップ1 2 ぶりかえり④ 全体研究会（今年度の振り返り・次年度にむけて） 校内学習到達度調査（5年）実施、採点・分析 研究紀要作成 			
3月	<ul style="list-style-type: none"> 研究紀要発行 			

算数の授業をもとに、今年度の重点について確認する。

具体的な授業を通して、各教科の研究の重点について確認し、今後の研究の視点の明確化を図る

国語の授業をもとに、1学期の実践の確認・まとめをし、今後の研究の方向性を明確にする

今年度の研究の具体的な姿を各教科において示し、今後の研究の充実を図る。

今年度のまとめとして、今年度の成果を共有し、まとめに生かす